

音 楽 科

1 教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

今回の改定では、**生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力**を育成することを目指す。その上で、育成を目指す資質・能力として、(1)に「知識及び技能」の習得、(2)に「思考力、判断力、表現力等」の育成、(3)に「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する目標を示す構成としている。また、このような資質・能力を育成するためには、**音楽的な見方・考え方**つまり、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」を働かせることが必要であることを示している。なお、**表現及び鑑賞の活動を通して**とは、児童が音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するためには、多様な音楽活動を幅広く体験することが大切であることを示したものである。学習指導要領では、このうち歌唱、器楽、音楽づくりを「表現」領域としてまとめ、「表現」と「鑑賞」の2領域で構成している。これらの活動はそれぞれが個々に行われるだけではなく、相互に関わり合っていることもある。また、〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を示しており、「A表現」及び「B鑑賞」の指導を併せて指導するものである。

A 表現			B 鑑賞
歌唱	器楽	音楽 づくり	
共通事項			

内容の構成

(1)の「知識及び技能」の習得に関する目標における「知識」とは、児童が音楽を形づくっている要素などの働きについて理解し、表現や鑑賞などに生かすことのできるような知識である。今回の改定では、理解させる知識として、**曲想と音楽の構造などとの関わり**と示している。**曲想**とは、その音楽に固有の雰囲気や表情、味わいのことであり、**音楽の構造**とは、音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合いである。**曲想と音楽の構造などとの関わり合いについて理解する**とは、表現や鑑賞の活動を通して、対象となる音楽に固有の雰囲気や表情を感じ取りながら、「音楽から喚起される自己のイメージや感情」と「音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合い」などとの関係を捉え、理解することである。なお、音楽の構造などの「など」には、歌唱分野における「歌詞の内容」も含まれている。

(2)の、**音楽表現を工夫する**とは、歌唱や器楽の学習においては、曲の特徴にふさわしい音楽表現を試しながら考えたり、音楽づくりの学習においては、実際に音を出しながら音楽の全体のまとまりなどを考えたりして、どのように表現するかについて思いや意図をもつことである。**味わって聴く**とは、音楽によって喚起された自己のイメージや感情を、曲想と音楽の構造との関わりなどと関連させて捉えなおし、自分にとっての音楽のよさや面白さなどを見いだし、曲全体を聴き深めていることである。

(3)の、**音楽活動の楽しさを体験する**とは、主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することである。**音楽を愛好する心情を育む**とは、児童が心から音楽を愛好することができるようにするとともに、生活の中に音楽を生かそうとする態度を、音楽科の学習を通して育むということである。**音楽に対する感性**とは、音楽的な刺激に対する反応、すなわち音楽的感受性（リズム感、旋律感、和音感、強弱感、速度感、音色感など）であり、表現及び鑑賞の活動の根底に関わるものである。**音楽に親しむ態度**とは、我が国や諸外国の様々な音楽活動に関心をもち、積極的に関わっていこ

うとする態度であり、学校内外の様々な音楽や音楽活動に主体的に関わっていく態度も含むものである。**豊かな情操を培う**とは、一人一人の豊かな心を育てるという重要な意味をもっている。情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心といい、情緒などに比べて更に複雑な感情を指すものとされている。音楽によって培われる情操は、直接的には美的情操が中心となるが、美しさを受容し求める心は、美だけに限らず、より善なるものや崇高なるものに対する心にも通じるものである。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 改定の基本的な考え方

- ・音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図る。
- ・音や音楽と自分との関りを築いていけるよう、生活や社会の中の音楽や音楽の働きについての意識を深める学習の充実を図る。
- ・我が国や郷土の音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習の充実を図る。

(2) 目標の改善

① 教科の目標の改善

音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」と規定し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」について示した。その育成に当たっては、児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、学習に取り組めるようにする必要があることを示した。

② 学年の目標の改善

教科の目標の構造と合わせ、「(1)知識及び技能」「(2) 思考力、判断力、表現力等」「(3)学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

(3) 内容構成の改善

「A表現」「B鑑賞」に示していた各事項を、「A表現」では「知識」「技能」「思考力、判断力、表現力等」に、「B鑑賞」では、「知識」「思考力、判断力、表現力等」に再整理して示した。

(4) 学習内容、学習指導の改善・充実

① 「知識」及び「技能」に関する指導内容の明確化

「知識」に関する指導内容については、「曲想と音楽の構造との関わり」などを理解することに関する具体的な内容を、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の領域や分野ごとに事項として示した。「A表現」の「技能」に関する指導内容については、思いや意図に合った表現などをするために必要な具体的な内容を、歌唱、器楽、音楽づくりの分野ごとに事項として示した。

② 「共通事項」の指導内容の改善

従前の趣旨を踏まえつつ、アの事項を「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力、イの事項を「知識」に関する資質・能力として示した。

③ 言語活動の充実

「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるようにすること」を、「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっての配慮事項として示した。

④ 「我が国の郷土の音楽」に関する学習の充実

これまで第5学年及び第6学年において取り上げる旋律楽器として例示していた和楽器を、第3学年及び第4学年の例示にも新たに加えることとした。我が国や郷土の音楽の指導に当たっての配慮事項として、「音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること」を新たに示した。